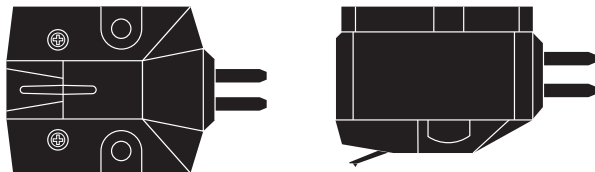
取扱説明書

audio-technica

MC型（デュアルムービングコイル）モノラルカートリッジ

（LP用）
AT-MONO3/LP MC

（SP用）
AT-MONO3/SP MC

お買い上げありがとうございます。
ご使用の前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。
また保証書と一緒にいつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

特　長

本製品はモノラルレコードの再生に特化して開発されたモノラルカートリッジです。
レコードの音溝を傷めることがないように、垂直方向にも一定のコンプライアンスを持ちながら、水平方向のモノラル信号のみ発電する構造となっています。
また、本製品はMCカートリッジでありながら出力電圧が大きくなっています。そのため、アンプのフォノ（PHONO）入力（MMポジション）に直接つないで使用することもできます。

●厳選された素材が生んだ高い解像力

アルミストレートパイプカンチレバーや針先の軽量化を進め、それによりトレース性能の正確さと安定度を高めています。

●コイルにPCOCC材を採用

PCOCCは伝送方向に結晶粒界を生じないため、よりピュアな伝送を実現します。

PCOCC
PCOCC=Pure Copper by Ohno Continuous Casting process
（単結晶状高純度無酸素銅）

■結晶構造の縦断面比較

通常のタフピッチ銅は結晶が外側から内側へ成長するため、縦方向に無数の結晶粒界を生じます。PCOCCは単結晶に限りなく近づいているのがわかります。

結晶の形成方向⇒

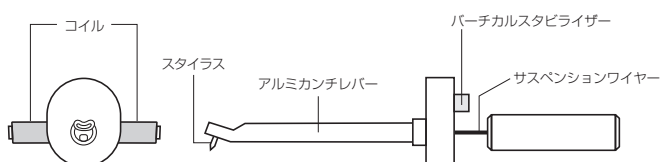
PCOCC（純度99.997%）

TPC（一般のタフピッチ銅）

種 類	PCOCC	OFC	TPC
純度(%)	99.997	99.995	99.95
比 重	8.942	8.927	8.75

●剛体化設計に徹した強靭なボディ

ハウジングには精密で堅牢なアルミ合金を採用。その上下から、硬質合成樹脂材で寄生共振を抑えこんだサンドイッチ構造となっています。これにより不要な振動を抑え、高剛性化とSN比の向上を図っています。

●振動系の構造

安全上の注意

本製品は安全性に充分な配慮をして設計をしていますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。事故を未然に防ぐために下記の内容を必ずお守りください。

⚠警告　この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。

●同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない
事故や火災の原因になります。

●幼児の手の届く所に置かない
事故や故障の原因になります。

⚠注意　この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

●直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない
故障や不具合の原因になります。

●振動系は指で触れない
故障の原因になります。

●分解や改造はしない
故障の原因になります。

●強い衝撃を与えない
故障の原因になります。

使いかた

＊針部分は大変デリケートです。取り扱いには充分ご注意ください。

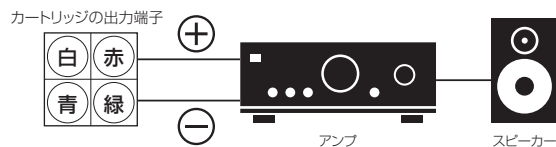
①ヘッドシェルに取り付けます。

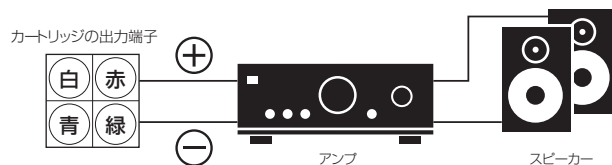
振動系を痛めないよう、透明なプロテクターをかぶせたまま取り付けます。ビスは仮締めしておきます。

②モノラルレコードを再生します。

次の3通りの方法があります。それぞれ異なった音質が得られますので、お好みの方法をお選びください。

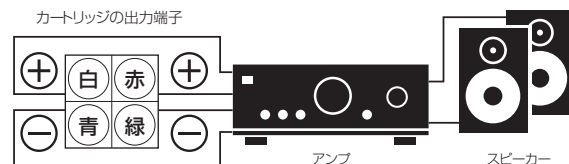
◆スピーカーのL、Rどちらかのチャンネルを使用する場合

カートリッジ、アンプ、スピーカーの片方のチャンネルだけを使用する方法で、音質的に最もシンプルです。カートリッジの端子は、赤と白がホット（+）、緑と青がアース（ー）です。Lチャンネルのスピーカーを使用する際は白と青、Rチャンネルの際は赤と緑の端子にリードチップを接続してください。アンプのモードをステレオにし、バランスはLかRいっぱいに回しておきます。

◆スピーカーのL、R両チャンネル、カートリッジの片チャンネルを使用する場合

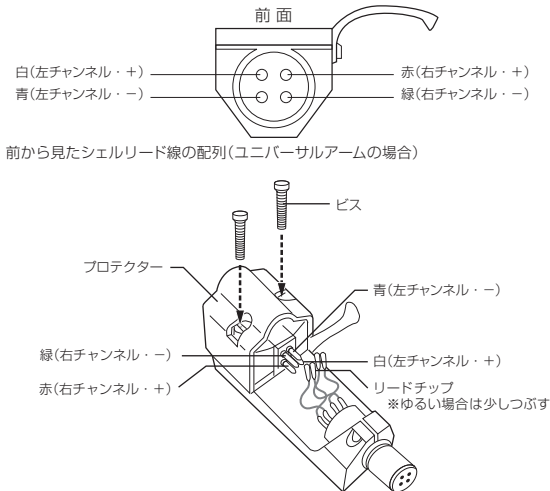
カートリッジの端子のうち、赤と緑または白と青のいずれかに接続し、アンプのモードセレクトをLまたはRのみにすると、両方のスピーカーから音が出ます。両方のスピーカーが使用できるという点で、違った味わいが得られます。

◆スピーカーのL、R両チャンネル、カートリッジの両チャンネルを使用する場合

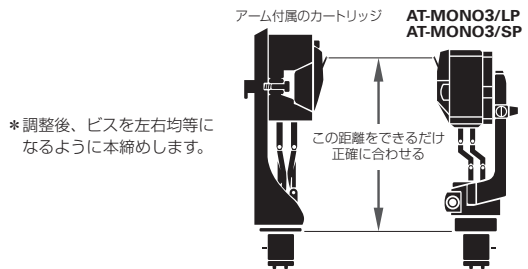
通常のステレオカートリッジと同じ接続方法です。端子の接続は次のようにしてください。

赤（R）＝右チャンネル・ホット（+）　　緑（RG）＝右チャンネル・アース（ー）
白（L）＝左チャンネル・ホット（+）　　青（LG）＝左チャンネル・アース（ー）

アンプのモードはステレオでもモノでも構いませんが、音質が異なることがあります。お好みに合わせてお選びください。なお、この接続方法では、アンプによって、ハムノイズの生じる場合があります。その際は、ほかの接続方法でご使用ください。

③出力端子の極性に注意してリードチップを接続します。

ユニバーサルアームのシェルリード線は、下図のように配列されています。カートリッジの出力端子へ、同じ色のリード線を接続します。リードチップがゆるいときは、少しつぶしてから行ってください。接続後、プロテクターを取り外します。
※出力端子にはハンダなどの熱を絶対に加えないでください。

前から見たシェルリード線の配列(ユニバーサルアームの場合)

④カートリッジの取り付け位置を正確に決めます。(オーバーハングの調整)

アームまたはプレーヤーシステムの取扱説明書に従ってオーバーハングの調整をします。不明な場合は、プレーヤーに最初から付いていたカートリッジの針先位置に合わせてください。(下図)
※誤差が大きいと音質が劣化しますので、できるだけ±1mm以内に揃えてください。

⑤針圧を調整します。

本製品の適正針圧はAT-MONO3/LPが1.5～2.5gで標準値は2.0g、AT-MONO3/SPが3.0～7.0gで標準値は5.0gです。
使用条件やお好みによって、適正値の範囲内で針圧を調整してご使用ください。

⑥アームの高さを調整します。

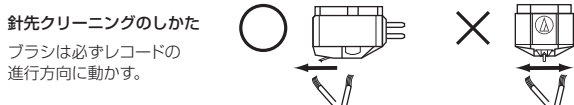
ヘッドシェルの底面とレコード面が横から見て平行になるように、高さを調整してください。アームの高さが適切でないと、カートリッジのボディがレコードに当たり、音質が劣化することがあります。
※接続する機器によっては、アームの高さを調整できない機器もあります。

⑦アンプまたは単体フォノイコライザーと接続します。

本製品はアンプのフォノ(PHONO)入力(MMポジション)に直接つないで使用することができます。音量が小さく感じる場合などはアンプやフォノイコライザーのフォノ(PHONO)入力(MCポジション)に接続してご使ください。
接続については、接続する機器の取扱説明書もご確認ください。

⑧針先をいつもきれいにしておいてください。

針先にごみや汚れが付着した場合は、付属のブラシできれいにしておいてください。汚れがひどい場合は、スタイラスクリーナー(別売)をおすすめします。根元から針先へ向かってブラシを動かしてクリーニングしてください。カートリッジをアームから外したときは忘れずにプロテクターを取り付け、アンプなどの熱源から離して保管してください。

針先クリーニングのしかた
ブラシは必ずレコードの進行方向に動かす。

⑨針交換はカートリッジ全体をお取り換えします。

ご使用済みのカートリッジを販売店へお持ちください。
本製品または当社販売中のMCカートリッジの中から、ご希望の機種を針交換価格でご提供させていただきます。なお、本製品の生産終了後については、販売中のMCカートリッジの中から針交換価格にてご提供させていただきます。あらかじめ、ご了承ください。

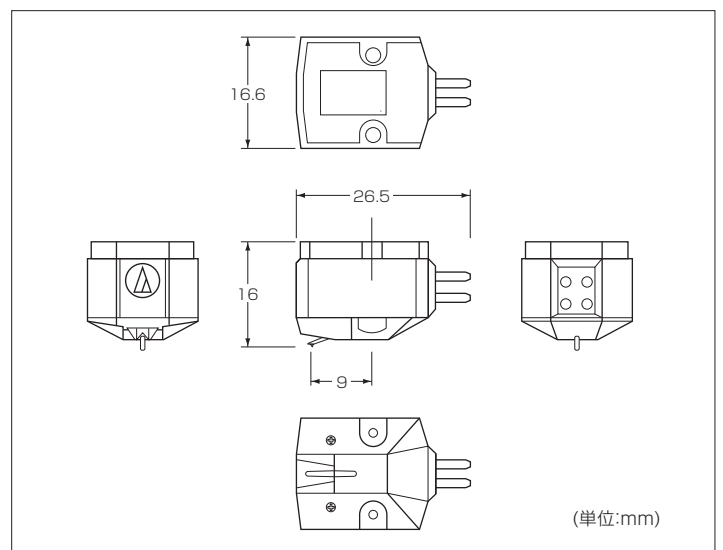
テクニカルデータ

AT-MONO3/LP

型式：MC型
再生周波数範囲：20～20,000Hz
出力電圧：1.2mV(1kHz、5cm/sec.)
水平/垂直出力比：30dB以上
針圧：1.5～2.5g(2.0g標準)
コイルインピーダンス：40Ω(1kHz)
直流抵抗：40Ω
負荷抵抗：400Ω以上(ヘッドアンプ接続時)
コイルインダクタンス：190mH(1kHz)
スタチックコンプライアンス：20×10^{-6}cm/dyne
ダイナミックコンプライアンス：7.0×10^{-6}cm/dyne(100Hz)
針先形状：丸針
垂直トラッキング角：23°
外形寸法：H16.0×W16.6×L26.5mm
質量：6.8g

AT-MONO3/SP

型式：MC型
再生周波数範囲：20～15,000Hz
出力電圧：1.2mV(1kHz、5cm/sec.)
水平/垂直出力比：30dB以上
針圧：3.0～7.0g(5.0g標準)
コイルインピーダンス：40Ω(1kHz)
直流抵抗：40Ω
負荷抵抗：400Ω以上(ヘッドアンプ接続時)
コイルインダクタンス：190mH(1kHz)
スタチックコンプライアンス：10×10^{-6}cm/dyne
ダイナミックコンプライアンス：3.5×10^{-6}cm/dyne(100Hz)
針先形状：丸針
垂直トラッキング角：23°
外形寸法：H16.0×W16.6×L26.5mm
質量：6.8g

●**付属品**：カートリッジ取り付けビス 13mm×2、20mm×2
非磁性体ドライバー×1、ナット×2、ワッシャー×2、ブラシ×1、スペーサープレート×1
(改良のため予告なく変更することがあります。)

アフターサービスについて
本製品をご家庭用として、取扱説明や接続･注意書きに従ったご使用において故障した場合、保証書記載の期間･規定により無料修理をさせていただきます。修理ができない製品の場合は、交換させていただきます。お買い上げの際の領収書またはレシートなどは、保証開始日の確認のために保証書と共に大切に保管し、修理などの際は提示をお願いします。

お問い合わせ先(電話受付／平日9：00～17：30)
製品の仕様･使いかたや修理･部品のご相談は、お買い上げのお店または当社窓口およびホームページのサポートまでお願いします。
●**お客様相談窓口(製品の仕様･使いかた)** 0120-773-417 (携帯電話･PHSなどのご利用は 03-6746-0211)
FAX：042-739-9120 Eメール：support@audio-technica.co.jp
●**サービスセンター(修理･部品)** 0120-887-416 (携帯電話･PHSなどのご利用は 03-6746-0212)
FAX：042-739-9120 Eメール：servicecenter@audio-technica.co.jp
●**ホームページ(サポート)** www.audio-technica.co.jp/atj/support/

株式会社オーディオテクニカ
〒194-8666 東京都町田市西成瀬2-46-1 http://www.audio-technica.co.jp
112300780